



## Cisco NCS 5000 シリーズ ルータ向け VPN およびイーサネットサービスのコマンドリファレンス

初版：2015年12月23日

### シスコシステムズ合同会社

〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー

<http://www.cisco.com/jp>

お問い合わせ先：シスコ コンタクトセンター

0120-092-255（フリーコール、携帯・PHS含む）

電話受付時間：平日 10:00～12:00、13:00～17:00

<http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/>

**【注意】** シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意（[www.cisco.com/jp/go/safety\\_warning/](http://www.cisco.com/jp/go/safety_warning/)）をご確認ください。本書は、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザー側の責任になります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

The Cisco implementation of TCP header compression is an adaptation of a program developed by the University of California, Berkeley (UCB) as part of UCB's public domain version of the UNIX operating system. All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコおよびこれら各社は、商品性の保証、特定目的への準拠の保証、および権利を侵害しないことに関する保証、あるいは取引過程、使用、取引慣行によって発生する保証をはじめとする、明示されたまたは黙示された一切の保証の責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、シスコおよびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコまたはその供給者に知らされていても、それらに対する責任を一切負わないものとします。

このマニュアルで使用している IP アドレスおよび電話番号は、実際のアドレスおよび電話番号を示すものではありません。マニュアル内の例、コマンド出力、ネットワーク トポロジ図、およびその他の図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際のアドレスおよび電話番号が使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

Cisco and the Cisco logo are trademarks or registered trademarks of Cisco and/or its affiliates in the U.S. and other countries. To view a list of Cisco trademarks, go to this URL: <http://www.cisco.com/go/trademarks>. Third-party trademarks mentioned are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (1110R)

© 2015 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.



## 目次

### はじめに v

マニュアルの変更履歴 v

マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート v

### イーサネット インターフェイス コマンド 1

encapsulation dot1q 2

encapsulation dot1ad 3

encapsulation dot1q second-dot1q 5

encapsulation dot1ad dot1q 6

l2transport (Ethernet) 8

rewrite ingress tag 10

### ポイントツーポイント レイヤ 2 サービス コマンド 13

interface (p2p) 14

l2transport 16

l2vpn 18

p2p 19

show l2vpn 20

show l2vpn collaborators 22

show l2vpn database 24

show l2vpn forwarding 27

show l2vpn index 30

show l2vpn resource 32

show l2vpn trace 34

show l2vpn xconnect 37

xconnect group 40





## はじめに

この「はじめに」には、次の項があります。

- [マニュアルの変更履歴](#), [v ページ](#)
- [マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート](#), [v ページ](#)

## マニュアルの変更履歴

表 1 に、初版後、このマニュアルに加えられた技術的な変更の履歴を示します。

表 1: マニュアルの変更履歴

日付	変更点
2015 年 12 月	このマニュアルの初版

## マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート

マニュアルの入手、Cisco Bug Search Tool (BST) の使用、サービス要求の送信、追加情報の収集の詳細については、『*What's New in Cisco Product Documentation*』を参照してください。このドキュメントは、<http://www.cisco.com/c/en/us/td/docs/general/whatsnew/whatsnew.html> から入手できます。

『*What's New in Cisco Product Documentation*』では、シスコの新規および改訂版の技術マニュアルの一覧を、RSS フィードとして購読できます。また、リーダーアプリケーションを使用して、コンテンツをデスクトップに配信することもできます。RSS フィードは無料のサービスです。





# イーサネット インターフェイス コマンド

---

ここでは、Cisco NCS 5001 ルータおよび Cisco NCS 5002 ルータでイーサネット インターフェイスを設定するために使用する Cisco IOS XR ソフトウェア コマンドについて説明します。

イーサネット インターフェイスの概念、設定作業、および例の詳細については、『Cisco NCS 5000 シリーズルータ向け L2VPN およびイーサネットサービスのコンフィギュレーションガイド』の「Carrier Ethernet Model」の章を参照してください。

- [encapsulation dot1q, 2 ページ](#)
- [encapsulation dot1ad, 3 ページ](#)
- [encapsulation dot1q second-dot1q, 5 ページ](#)
- [encapsulation dot1ad dot1q, 6 ページ](#)
- [l2transport \(Ethernet\), 8 ページ](#)
- [rewrite ingress tag, 10 ページ](#)

## encapsulation dot1q

インターフェイスの 802.1Q フレーム入力を適切なサービス インスタンスにマッピングするための一致基準を定義するには、インターフェイス コンフィギュレーション モードで **encapsulation dot1q** コマンドを使用します。インターフェイスの 802.1Q フレーム入力を適切なサービス インスタンスにマッピングするための一致基準を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**encapsulation dot1q** *vlan-id* [**second-dot1q** *vlan-id*]

**no encapsulation dot1q**

### 構文の説明

*vlan-id* VLAN ID。単一の ID として指定できます。

### コマンド デフォルト

一致基準は定義されていません。

### コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション

### コマンド履歴

リリース	変更内容
リリース 6.0	このコマンドが導入されました。

### 使用上のガイドライン

1つのカプセル化ステートメントだけをサブインターフェイスに適用できます。カプセル化ステートメントをメイン インターフェイスに適用することはできません。

単一の **encapsulation dot1q** ステートメントは、単一の VLAN ID 付きフレームに対するマッチングを指定します。

### 例

次に、インターフェイスの 802.1Q フレーム入力を適切なサービス インスタンスにマッピングする例を示します。

```
RP/0/RP0/CPU0:router(config-if)# encapsulation dot1q 10
```

次に、**l2transport** サブインターフェイスの 802.1Q フレーム入力をマッピングする例を示します。

```
RP/0/RP0/CPU0:router# configure
RP/0/RP0/CPU0:router(config)# interface TenGigE 0/1/0/3.10 l2transport
RP/0/RP0/CPU0:router(config-subif)# encapsulation dot1q 10
```

## encapsulation dot1ad

インターフェイスの 802.1ad フレーム入力を適切なサービス インスタンスにマッピングするための一致基準を定義するには、インターフェイス コンフィギュレーション モードで `encapsulation dot1ad` コマンドを使用します。インターフェイスの 802.1ad フレーム入力を適切なサービス インスタンスにマッピングするための一致基準を削除するには、このコマンドの `no` 形式を使用します。

**encapsulation dot1ad** *vlan-id* [**second-dot1ad** *vlan-id*]

**no encapsulation dot1ad**

### 構文の説明

*vlan-id* VLAN ID。単一の ID として指定できます。

### コマンド デフォルト

一致基準は定義されていません。

### コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション

### コマンド履歴

リリース	変更内容
リリース 6.0	このコマンドが導入されました。

### 使用上のガイドライン

1つのカプセル化ステートメントだけをサブインターフェイスに適用できます。カプセル化ステートメントをメインインターフェイスに適用することはできません。

単一の `encapsulation dot1ad` ステートメントは、単一の VLAN ID 付きフレームに対するマッチングを指定します。

### 例

次に、インターフェイスの 802.1ad フレーム入力を適切なサービス インスタンスにマッピングする例を示します。

```
RP/0/RP0/CPU0:router(config-if)# encapsulation dot1ad 10
```

次に、インターフェイスの 802.1ad フレーム入力を l2transport サブインターフェイスにマッピングする例を示します。

```
RP/0/RP0/CPU0:router# configure
```

## encapsulation dot1ad

```
RP/0/RP0/CPU0:router(config)# interface TenGigE 0/1/0/3.10 l2transport
RP/0/RP0/CPU0:router(config-subif)# encapsulation dot1ad 10
```

## encapsulation dot1q second-dot1q

インターフェイスのQ-in-Q入力フレームを適切なサービスインスタンスにマッピングするための一致基準を定義するには、インターフェイスコンフィギュレーションモードで `encapsulation dot1q second-dot1q` コマンドを使用します。設定を削除するには、このコマンドの `no` 形式を使用します。

`encapsulation dot1q vlan-id [second-dot1q vlan-id]`

`no encapsulation dot1q vlan-id [second-dot1q vlan-id]`

### 構文の説明

<code>vlan-id</code>	VLAN ID。単一の ID として指定できます。
<code>second-dot1q</code>	(任意) IEEE 802.1Q VLAN タグ付きパケットを指定します。

### コマンド デフォルト

一致基準は定義されていません。

### コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション

### コマンド履歴

リリース	変更内容
リリース 6.0	このコマンドが導入されました。

### 使用上のガイドライン

このコマンドの基準では、外側のタグは一意である必要があり、内側のタグは単一の VLAN にすることができます。

QinQ サービス インスタンス。 `second-dot1q` に 1 つでも、複数でもかまいません。

サービス インスタンスごとに 1 つの `encapsulation` コマンドだけを設定する必要があります。

### 例

次に、入力フレームをサービス インスタンスにマッピングする例を示します。

```
RP/0/RP0/CPU0:router(config-if)# encapsulation dot1q 10 second-dot1q 20
```

## encapsulation dot1ad dot1q

インターフェイスのシングルタグ 802.1ad フレーム入力を適切なサービス インスタンスにマッピングするために使用する一致基準を定義するには、サブインターフェイス コンフィギュレーション モードで `encapsulation dot1ad dot1q` コマンドを使用します。設定を削除するには、このコマンドの `no` 形式を使用します。

**encapsulation dot1ad *vlan-id* dot1q *vlan-id***

**noencapsulation dot1ad *vlan-id* dot1q *vlan-id***

### 構文の説明

<b>dot1ad</b>	IEEE 802.1ad プロバイダー ブリッジ カプセル化タイプが外部タグに使用されることを示します。
<b>dot1q</b>	IEEE 802.1q 標準カプセル化タイプが内部タグに使用されることを示します。
<b><i>vlan-id</i></b>	VLAN ID。単一の ID として指定できます。

### コマンド デフォルト

一致基準は定義されていません。

### コマンド モード

サブインターフェイス コンフィギュレーション

### コマンド履歴

リリース	変更内容
リリース 6.0	このコマンドが導入されました。

### 使用上のガイドライン

外部 VLAN タグは 802.1Q タグではなく、802.1ad VLAN タグです。802.1ad タグには、802.1Q が使用する 0x8100 ではなく、0x88A8 の `ethertype` 値があります。

一部の 802.1ad VLAN ヘッダーのフィールドは、802.1ad 標準ごとに異なる意味で解釈されます。メイン インターフェイスに適用された `tunneling ethertype` コマンドは 802.1ad サブインターフェイスには適用されません。

インターフェイスに `encapsulation dot1ad` がある場合、ルータは、そのインターフェイスを 802.1ad インターフェイスとして分類します。その場合、特定のプロトコルやその他の機能に対する特殊な処理が発生します。

- MSTP は、STP MAC アドレスではなく、IEEE 802.1ad MAC STP アドレスを使用します。
- 特定の QoS 機能は、IEEE 802.1ad タグの廃棄適格 (DE) ビットを使用する場合があります。

---

**例**

次に、シングルタグ 802.1ad 入力フレームをサービス インスタンスにマッピングする例を示します。

```
RP/0/RP0/CPU0:router(config-subif)# encapsulation dot1ad 100 dot1q 20
```

## l2transport (Ethernet)

イーサネットインターフェイスでレイヤ2 転送ポートモードをイネーブルにし、レイヤ2 転送コンフィギュレーションモードを開始するには、イーサネットインターフェイスのインターフェイスまたはサブインターフェイス コンフィギュレーションモードで **l2transport** コマンドを使用します。イーサネットインターフェイスでレイヤ2 転送ポートモードをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

### l2transport

#### no l2transport

このコマンドにはキーワードまたは引数はありません。

#### コマンド デフォルト

なし

#### コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション  
サブインターフェイス コンフィギュレーション

#### コマンド履歴

##### リリース

##### 変更内容

リリース 6.0

このコマンドが導入されました。

#### 使用上のガイドライン

このコマンドの使用に影響する特定のガイドラインはありません。



(注)

l2transport コマンドは、レイヤ3 インターフェイス コンフィギュレーションと同時に使用できません。

#### タスク ID

##### タスク ID

##### 動作

l2vpn

読み取り、書き込み

## 例

次に、イーサネットインターフェイスでレイヤ 2 転送ポート モードをイネーブルにし、レイヤ 2 転送コンフィギュレーション モードを開始する例を示します。

```
RP/0/RP0/CPU0:router# configure
RP/0/RP0/CPU0:router(config)# interface TenGigE 0/2/0/0
RP/0/RP0/CPU0:router(config-if)# l2transport
RP/0/RP0/CPU0:router(config-if-l2)#
```



(注) l2transport コマンドは、イーサネット サブインターフェイスの interface コマンドと同じ行に必ず適用してください。

次に、イーサネット サブインターフェイスで l2transport コマンドを使用する例を示します。

```
RP/0/RP0/CPU0:router# configure
RP/0/RP0/CPU0:router(config)# interface TenGigE 0/1/0/3.10 l2transport
RP/0/RP0/CPU0:router(config-subif)# encapsulation dot1q 10
```

## rewrite ingress tag

サービス インスタンスへのフレーム入力で実行されるカプセル化調整を指定するには、インターフェイス コンフィギュレーション モードで `rewrite ingress tag` コマンドを使用します。サービス インスタンスに対してフレーム入力で実行されるカプセル化調整を削除するには、このコマンドの `no` 形式を使用します。

```
rewrite ingress tag {push {dot1q vlan-id}| pop {1}| translate {1-to-1 {dot1q vlan-id}| 1-to-2 {dot1q vlan-id}
}| 2-to-2 {dot1q vlan-id dot1q vlan-id}| 2-to-1 dot1q vlan-id}} [symmetric]
```

```
no rewrite ingress tag {push {dot1q vlan-id}| pop {1}| translate {1-to-1 {dot1q vlan-id}| 1-to-2 {dot1q
vlan-id }| 2-to-2 {dot1q vlan-id dot1q vlan-id}| 2-to-1 dot1q vlan-id}} [symmetric]
```

### 構文の説明

<code>vlan-id</code>	VLAN ID。単一の ID として指定できます。
<code>push dot1q vlan-id</code>	VLAN ID 付きの 1 つの 802.1Q タグをプッシュします。
<code>pop {1}</code>	1 つのタグがパケットから削除されます。このコマンドは、push (pop N とその後の push VLAN ID) と組み合わせることができます。
<code>translate 1-to-1 dot1q vlan-id</code>	入力サービス インスタンスで、着信タグ (encapsulation コマンドで定義された) を異なる 802.1Q タグに置換します。
<code>translate 1-to-2 dot1q vlan-id dot1q vlan-id</code>	encapsulation コマンドによって定義された着信タグを 802.1Q タグのペアで置き換えます。
<code>translate 2-to-2 dot1q vlan-id second-dot1q vlan-id</code>	encapsulation コマンドによって定義されたタグのペアを、この書き換えによって定義された VLAN のペアで置き換えます。
<code>translate 2-to-1 dot1q vlan-id</code>	encapsulation コマンドに VLAN ID で定義されたタグのペアを置き換えます。
<code>symmetric</code>	(任意) 書き換え操作は、入力と出力の両方に適用されません。出力に対する操作は、入力とは逆の操作です。 (注) symmetric がデフォルトです。そのため、ディセーブルにできません。

**コマンド デフォルト** フレームは、入力でそのまま残ります。

**コマンド モード** インターフェイス コンフィギュレーション

## コマンド履歴

リリース	変更内容
リリース 6.0	このコマンドが導入されました。

## 使用上のガイドライン

カプセル化に単一の VLAN が設定されている場合に限り、**symmetric** キーワードが受け入れられます。カプセル化で VLAN のリストが設定されている場合、**symmetric** キーワードはプッシュ書き換え操作にのみ受け入れられます。その他すべての書き換え操作は拒否されます。

pop コマンドは、ポップさせる要素がカプセル化タイプによって定義されていることを前提としています。

rewrite ingress tag translate コマンドは、変換されるタグがカプセル化タイプによって定義されていることを前提としています。2-to-1 オプションでは、「2」は **encapsulation** コマンドに寄って定義されたタイプの2つのタグを意味しています。変換操作では、少なくとも元のパケットの「from」タグを必要とします。元のパケットに「from」で定義されたものよりも多くのタグが含まれている場合、操作は外部タグの先頭で実行する必要があります。

## 例

次に、サービス インスタンスへのフレーム入力で行われるカプセル化調整を指定する例を示します。

```
RP/0/RP0/CPU0:router(config-if)# rewrite ingress push dot1q 200
```





# ポイントツーポイント レイヤ2サービス コマンド

---

このモジュールでは、レイヤ2バーチャルプライベートネットワーク（VPN）の設定、モニタ、およびトラブルシューティングに使用するコマンドについて説明します。

ポイントツーポイント レイヤ2サービスの概念、設定作業、および例の詳細については、『Cisco NCS 5000 シリーズルータ向け L2VPN およびイーサネットサービスのコンフィギュレーションガイド』の「Implementing Point-to-point Layer 2 Services」の章を参照してください。

- [interface \(p2p\)](#) , 14 ページ
- [l2transport](#), 16 ページ
- [l2vpn](#), 18 ページ
- [p2p](#), 19 ページ
- [show l2vpn](#), 20 ページ
- [show l2vpn collaborators](#), 22 ページ
- [show l2vpn database](#), 24 ページ
- [show l2vpn forwarding](#), 27 ページ
- [show l2vpn index](#), 30 ページ
- [show l2vpn resource](#), 32 ページ
- [show l2vpn trace](#), 34 ページ
- [show l2vpn xconnect](#), 37 ページ
- [xconnect group](#), 40 ページ

## interface (p2p)

接続回線を設定するには、p2p コンフィギュレーション サブモードで **interface** コマンドを使用します。デフォルトの動作に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**interface type interface-path-id l2transport**

**no interface type interface-path-id l2transport**

### 構文の説明

<i>type</i>	インターフェイス タイプ。詳細については、疑問符 (?) オンライン ヘルプ機能を使用します。
<i>interface-path-id</i>	物理インターフェイスまたは仮想インターフェイス。  (注) ルータに現在設定されている可能性があるすべてのインターフェイスのリストを表示するには、 <b>show interfaces</b> コマンドを使用します。ルータの構文の詳細については、疑問符 (?) を使用してオンラインヘルプを参照してください。

### コマンド デフォルト

なし

### コマンド モード

p2p コンフィギュレーション サブモード

### コマンド履歴

リリース	変更内容
リリース 6.0	このコマンドが導入されました。

### 使用上のガイドライン

このコマンドの使用に影響する特定のガイドラインはありません。

### タスク ID

タスク ID	動作
l2vpn	読み取り、書き込み

---

例

次に、TenGigE インターフェイスで接続回線を設定する例を示します。

```
RP/0/RP0/CPU0:router# configure
RP/0/RP0/CPU0:router(config)# interface TenGigE 0/0/0/10.20 12transport
RP/0/RP0/CPU0:router(config-subif)# encaps dot1ad 3000
RP/0/RP0/CPU0:router(config-subif)# commit
RP/0/RP0/CPU0:router(config-subif)#
```

# l2transport

物理インターフェイスをレイヤ2転送モードで動作するように設定するには、インターフェイスコンフィギュレーションモードで `l2transport` コマンドを使用します。デフォルトの動作に戻すには、このコマンドの `no` 形式を使用します。

## `l2transport`

### `no l2transport`

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト      なし

コマンド モード      インターフェイス コンフィギュレーション

### コマンド履歴

リリース	変更内容
リリース 6.0	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン `l2transport` コマンドとこれらの設定項目は、互いに排他的です。

- IPv4 アドレスと L3 機能の設定
- IPv4 のイネーブル化と L3 機能の設定
- バンドルのイネーブル化コンフィギュレーション
- L3 サブインターフェイス
- レイヤ 3 QoS ポリシー



(注) インターフェイスまたは接続がレイヤ2でスイッチングされるように設定した後は、`ipv4 address` などのコマンドが使用できなくなります。インターフェイスにルーティング コマンドを設定した場合、`l2transport` は拒否されます。

## タスク ID

## タスク ID

## 動作

l2vpn

読み取り、書き込み

## 例

次に、いくつかの異なるモードでインターフェイスまたは接続をレイヤ2スイッチドとして設定する例を示します。

イーサネットポートモード：

```
RP/0/RP0/CPU0:router# configure
RP/0/RP0/CPU0:router(config)# interface TenGigE 0/0/0/10
RP/0/RP0/CPU0:router(config-if)# l2transport
```

イーサネット VLAN モード：

```
RP/0/RP0/CPU0:router# configure
RP/0/RP0/CPU0:router(config)# interface TenGigE 0/0/0/0.1 l2transport
RP/0/RP0/CPU0:router(config-if)# encapsulation dot1q 10
```

イーサネット VLAN モード (QinQ)：

```
RP/0/RP0/CPU0:router# configure
RP/0/RP0/CPU0:router(config)# interface TenGigE 0/0/0/0.1 l2transport
RP/0/RP0/CPU0:router(config-if)# encapsulation dot1q 10 second-dot1q 11
```

# l2vpn

L2VPN コンフィギュレーション モードを開始するには、XR コンフィギュレーション モードで l2vpn コマンドを使用します。デフォルトの動作に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**l2vpn**

**no l2vpn**

## 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

## コマンド デフォルト

なし

## コマンド モード

XR コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
リリース 6.0	このコマンドが導入されました。

## 使用上のガイドライン

このコマンドの使用に影響する特定のガイドラインはありません。

## タスク ID

タスク ID	動作
l2vpn	読み取り、書き込み

## 例

次に、L2VPN コンフィギュレーション モードを開始する例を示します。

```
RP/0/RP0/CPU0:router# configure
RP/0/RP0/CPU0:router (config)# l2vpn
RP/0/RP0/CPU0:router (config-l2vpn)#
```

# p2p

ポイントツーポイントの相互接続を設定し、p2p コンフィギュレーション サブモードを開始するには、L2VPN xconnect モードで p2p コマンドを使用します。デフォルトの動作に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**p2p** *xconnect-name*

**no p2p** *xconnect-name*

構文の説明

*xconnect-name* (任意) ポイントツーポイント相互接続の名前を設定します。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

L2VPN xconnect

コマンド履歴

リリース	変更内容
リリース 6.0	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

ポイントツーポイント相互接続ストリングの名前は、自由形式の説明ストリングです。

タスク ID

タスク ID	動作
l2vpn	読み取り、書き込み

例

次に、ポイントツーポイントの相互接続を設定する例を示します。

```
RP/0/RP0/CPU0:router# configure
RP/0/RP0/CPU0:router(config)# l2vpn
RP/0/RP0/CPU0:router(config-l2vpn)# xconnect group XCON1
RP/0/RP0/CPU0:router(config-l2vpn-xc)# p2p XCON1_P2P3
RP/0/RP0/CPU0:router(config-l2vpn-xc-p2p)# interface TenGigE0/0/0/0
RP/0/RP0/CPU0:router(config-l2vpn-xc-p2p)# interface TenGigE0/0/0/8
RP/0/RP0/CPU0:router(config-l2vpn-xc-p2p)# commit
```

# show l2vpn

L2VPN 情報を表示するには、XR EXEC モードで **show l2vpn** コマンドを使用します。

## show l2vpn

### 構文の説明

このコマンドにはキーワードまたは引数はありません。

### コマンド デフォルト

なし

### コマンド モード

XR EXEC モード

### コマンド履歴

リリース	変更内容
リリース 6.0	このコマンドが導入されました。

### 使用上のガイドライン

このコマンドの使用に影響する特定のガイドラインはありません。

### タスク ID

タスク ID	動作
l2vpn	読み取り

### 例

次に、show l2vpn コマンドによる出力例を示します。この出力には、グローバルに設定された機能ステータスの概要が示されます。

```
RP/0/RP0/CPU0:router# show l2vpn

Mon Oct 12 14:14:48.869 UTC
HA role      : Active
ISSU role    : Primary
Process FSM  : PrimaryActive
-----
PW-Status: enabled
PW-Grouping: disabled
Logging PW: disabled
Logging BD state changes: disabled
Logging VFI state changes: disabled
```

```
Logging NSR state changes: disabled  
TCN propagation: disabled  
PW OAM transmit time: 30s
```

# show l2vpn collaborators

l2vpn\_mgr とその他のプロセスとの間の、プロセス間通信接続のステートに関する情報を表示するには、XR EXEC モードで show l2vpn collaborators コマンドを使用します。

## show l2vpn collaborators

### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

### コマンド デフォルト

なし

### コマンド モード

XR EXEC モード

### コマンド履歴

リリース	変更内容
リリース 6.0	このコマンドが導入されました。

### 使用上のガイドライン

このコマンドの使用に影響する特定のガイドラインはありません。

### タスク ID

タスク ID	動作
l2vpn	読み取り、書き込み

### 例

次に、show l2vpn collaborators コマンドによる出力例を示します。

```
RP/0/RP0/CPU0:router# show l2vpn collaborators
Mon Oct 12 14:14:57.373 UTC
```

```
L2VPN Collaborator stats:
Name          State      Up Cnts    Down Cnts
-----
LSD           Up         1          0
```

次の表で、この出力に表示される重要なフィールドを説明します。

表 2 : *show l2vpn collaborators Field Descriptions*

フィールド	説明
Name	l2vpn_mgr と対話するタスクの短縮名。
State	l2vpn_mgr と他のプロセスとの間に作業接続があるかどうかを示します。
Up Cnts	l2vpn_mgr と他のプロセスとの間の接続が正常に確立された回数。
Down Cnts	l2vpn_mgr と他のプロセスとの間の接続が失敗または中断した回数。

# show l2vpn database

L2VPN データベースを表示するには、XR EXEC モードで `show l2vpn database` コマンドを使用します。

**show l2vpn database {ac| node}**

## 構文の説明

<b>ac</b>	L2VPN 接続回線 (AC) データベースを表示します。
<b>node</b>	L2VPN ノードのデータベースを表示します。

## コマンド デフォルト

なし

## コマンド モード

XR EXEC モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
リリース 6.0	このコマンドが導入されました。

## 使用上のガイドライン

このコマンドの使用に影響する特定のガイドラインはありません。

## タスク ID

タスク ID	動作
l2vpn	読み取り

## 例

次に、`show l2vpn database ac` コマンドによる出力例を示します。

```
RP/0/RP0/CPU0:router# show l2vpn database ac
Mon Oct 12 14:15:47.731 UTC
Bundle-Ether1:
  Other-Segment MTU: 0
  Other-Segment status flags: 0x3
```

```

    Signaled capability valid: Yes
    Signaled capability flags: 0x360018
    Configured capability flags: 0x0
    XCID: 0xa0000001
    PSN Type: Undefined
    ETH data:
      Xconnect tags: 0
      Vlan rewrite tag: 0
AC defn:
  ac-iframe: Bundle-Ether1
  capabilities: 0x00368079
  extra-capabilities: 0x00000000
  parent-ifh: 0x00000000
  ac-type: 0x04
  interworking: 0x00
AC info:
  seg-status-flags: 0x00000003
  segment mtu/l2-mtu: 1500/1514

TenGigE0/0/0/0.1:
  Other-Segment MTU: 0
  Other-Segment status flags: 0x3
  Signaled capability valid: Yes
  Signaled capability flags: 0x360018
  Configured capability flags: 0x0
  XCID: 0xea
  PSN Type: Undefined
  ETH data:
    Xconnect tags: 0
    Vlan rewrite tag: 0
AC defn:
  ac-iframe: TenGigE0_0_0_0.1
  capabilities: 0x00368079
  extra-capabilities: 0x00000000
  parent-ifh: 0x08000018
  ac-type: 0x15
  interworking: 0x00
AC info:
  seg-status-flags: 0x00000003
  segment mtu/l2-mtu: 1504/1518

```

次に、show l2vpn database node コマンドによる出力例を示します。

```

RP/0/RP0/CPU0:router# show l2vpn database node
Mon Oct 12 14:16:30.540 UTC
Node ID: 0x1000 (0/RP0/CPU0)
MA: vlan_ma      inited:1, flags:0x 2, circuits:3744
AC event trace history [Total events: 4]
-----
Time           Event                               Num Rcvd   Num Sent
====           =====
10/12/2015 12:46:00 Process joined                       0           0
10/12/2015 12:46:00 Process init success                 0           0
10/12/2015 12:46:00 Replay start rcvd                   0           0
10/12/2015 12:46:00 Replay end rcvd                     0           0

MA: ether_ma     inited:1, flags:0x 2, circuits:2
AC event trace history [Total events: 4]
-----
Time           Event                               Num Rcvd   Num Sent
====           =====
10/12/2015 12:41:19 Process joined                       0           0
10/12/2015 12:41:19 Process init success                 0           0
10/12/2015 12:41:19 Replay start rcvd                   0           0
10/12/2015 12:41:19 Replay end rcvd                     0           0

MA: atm_ma       inited:0, flags:0x 0, circuits:0
MA: hdlc_ma      inited:0, flags:0x 0, circuits:0
MA: fr_ma        inited:0, flags:0x 0, circuits:0
MA: ppp_ma       inited:0, flags:0x 0, circuits:0
MA: cem_ma       inited:0, flags:0x 0, circuits:0
MA: vif_ma       inited:0, flags:0x 0, circuits:0

```

## show l2vpn database

```
MA: pwhe_ma      inited:0, flags:0x 0, circuits:0
MA: nve_mgr      inited:0, flags:0x 0, circuits:0
MA: mstp         inited:0, flags:0x 0, circuits:0
MA: span        inited:0, flags:0x 0, circuits:0
MA: erp          inited:0, flags:0x 0, circuits:0
MA: erp_test     inited:0, flags:0x 0, circuits:0
MA: mstp_test    inited:0, flags:0x 0, circuits:0
MA: evpn         inited:0, flags:0x 0, circuits:0
```

## show l2vpn forwarding

layer2\_fib マネージャからの転送情報を表示するには、XR EXEC モードで `show l2vpn forwarding` コマンドを使用します。

**show l2vpn forwarding** {**counter**| **debug**| **detail**| **hardware**| **interface**| **location** [*node-id* ]| **private**}

### 構文の説明

<b>counter</b>	相互接続カウンタを表示します。
<b>debug</b>	デバッグ情報を表示します。
<b>detail</b>	layer2_fib マネージャからの詳細情報を表示します。
<b>hardware</b>	ハードウェア関連の layer2_fib マネージャ情報を表示します。
<b>interface</b>	一致 AC サブインターフェイスを表示します。
<b>location</b> <i>node-id</i>	指定した場所の layer2_fib マネージャ情報を表示します。 <i>node-id</i> 引数は、 <i>rack/slot/module</i> の形式で入力します。
<b>private</b>	出力には個人情報が含まれます。

コマンド デフォルト なし

コマンド モード XR EXEC モード

### コマンド履歴

リリース	変更内容
リリース 6.0	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドの使用に影響する特定のガイドラインはありません。

タスク ID

タスク ID	動作
l2vpn	読み取り

例

次に、show l2vpn forwarding コマンドによる出力例を示します。

```
RP/0/RP0/CPU0:router# show l2vpn forwarding location 0/RP0/CPU0
Mon Oct 12 14:19:11.771 UTC
Segment 1                               Segment 2                               State
-----
Te0/0/0/0.234                           ac Te0/0/0/26.234                       UP
Te0/0/0/0.233                           ac Te0/0/0/26.233                       UP
Te0/0/0/0.232                           ac Te0/0/0/26.232                       UP
Te0/0/0/0.231                           ac Te0/0/0/26.231                       UP
Te0/0/0/0.230                           ac Te0/0/0/26.230                       UP
```

次に、show l2vpn forwarding counter location コマンドによる出力例を示します。

```
RP/0/RP0/CPU0:router# show l2vpn forwarding counter location 0/RP0/CPU0
Mon Oct 12 14:18:01.194 UTC
Legend: ST = State, DN = Down
Segment 1                               Segment 2                               ST Byte
-----                               -----                               - Switched
Te0/0/0/0.234                           ac Te0/0/0/26.234                       UP 15098997504
Te0/0/0/0.233                           ac Te0/0/0/26.233                       UP 15098997568
Te0/0/0/0.232                           ac Te0/0/0/26.232                       UP 15098997504
Te0/0/0/0.231                           ac Te0/0/0/26.231                       UP 15098997568
Te0/0/0/0.230                           ac Te0/0/0/26.230                       UP 15098997568
```

次に、show l2vpn forwarding summary location コマンドによる出力例を示します。

```
RP/0/RP0/CPU0:router# show l2vpn forwarding summary location 0/RP0/CPU0
Mon Oct 12 14:18:25.838 UTC
To Resynchronize MAC table from the Network Processors, use the command...
l2vpn resynchronize forwarding mac-address-table location <r/s/i>

Major version num:1, minor version num:0
Shared memory timestamp:0xa41120d180
Global configuration:
Number of forwarding xconnect entries:1873
  Up:1873  Down:0
  AC-PW(atom):0 AC-PW(l2tpv2):0 AC-PW(l2tpv3):0
  AC-PW(l2tpv3-ipv6):0
  AC-AC:1873 AC-BP:0 (PWHE AC-BP:0) AC-Unknown:0
  PW-BP:0 PW-Unknown:0
  PBB-BP:0 PBB-Unknown:0
  EVPN-BP:0 EVPN-Unknown:0
  VNI-BP:0 VNI-Unknown:0
  Monitor-Session-PW:0 Monitor-Session-Unknown:0
Number of xconnects down due to:
  AIB:0 L2VPN:0 L3FIB:0 VPDN:0
Number of xconnect updates dropped due to:
  Invalid XID: 0 VPWS PW, 0 VPLS PW, 0 Virtual-AC, 0 PBB,
  0 EVPN
  0 VNI
Exceeded max allowed: 0 VPLS PW, 0 Bundle-AC
Number of p2p xconnects: 1873
Number of bridge-port xconnects: 0
Number of nexthops:0
```

```
Number of bridge-domains: 0
  0 with routed interface
  0 with PBB-EVPN enabled
  0 with EVPN enabled
  0 with p2mp enabled
Number of bridge-domain updates dropped: 0
Number of total macs: 0
  0 Static macs
  0 Routed macs
  0 BMAC
  0 Source BMAC
  0 Locally learned macs
  0 Remotely learned macs
Number of total P2MP Ptree entries: 0
Number of PWHE Main-port entries: 0
Number of EVPN Multicast Replication lists: 0 (0 default)
```

次に、show l2vpn forwarding detail location コマンドによる出力例を示します。

```
RP/0/RP0/CPU0:router# show l2vpn forwarding detail location 0/RP0/CPU0
```

```
Mon Oct 12 14:18:47.187 UTC
Local interface: TenGigE0/0/0/0.234, Xconnect id: 0x1, Status: up
  Segment 1
    AC, TenGigE0/0/0/0.234, status: Bound
    Statistics:
      packets: received 238878391, sent 313445
      bytes: received 15288217024, sent 20060480
      packets dropped: PLU 0, tail 0
      bytes dropped: PLU 0, tail 0
  Segment 2
    AC, TenGigE0/0/0/26.234, status: Bound

Local interface: TenGigE0/0/0/0.233, Xconnect id: 0x2, Status: up
  Segment 1
    AC, TenGigE0/0/0/0.233, status: Bound
    Statistics:
      packets: received 238878392, sent 313616
      bytes: received 15288217088, sent 20071424
      packets dropped: PLU 0, tail 0
      bytes dropped: PLU 0, tail 0
  Segment 2
    AC, TenGigE0/0/0/26.233, status: Bound

Local interface: TenGigE0/0/0/0.232, Xconnect id: 0x3, Status: up
  Segment 1
    AC, TenGigE0/0/0/0.232, status: Bound
    Statistics:
      packets: received 238878391, sent 313476
      bytes: received 15288217024, sent 20062464
      packets dropped: PLU 0, tail 0
      bytes dropped: PLU 0, tail 0
  Segment 2
    AC, TenGigE0/0/0/26.232, status: Bound
```

## show l2vpn index

インデックス マネージャに関する統計情報を表示するには、XR EXEC モードで show l2vpn index コマンドを使用します。

**show l2vpn index [location| private]private**

### 構文の説明

**location** (任意) 指定した場所のインデックス マネージャに関する統計情報を表示します。

**private** (任意) 各プールに割り当てられたすべてのインデックスに関する詳細情報。

### コマンド デフォルト

なし

### コマンド モード

XR EXEC モード

### コマンド履歴

リリース	変更内容
リリース 6.0	このコマンドが導入されました。

### 使用上のガイドライン

このコマンドの使用に影響する特定のガイドラインはありません。

### タスク ID

タスク ID	動作
l2vpn	読み取り

## 例

次に、show l2vpn index コマンドによる出力例を示します。

```
RP/0/RP0/CPU0:router# show l2vpn index
Mon Oct 12 14:20:20.218 UTC
Pool id: 0x0, App: AC
  Max number of ID mgr instances: 1
  ID mgr instances in use: 1
  Pool size: 32513
  zombied IDs: 0
  allocated IDs: 3745

Pool id: 0xffff80002, App: BD
  Max number of ID mgr instances: 1
  ID mgr instances in use: 1
  Pool size: 8192
  zombied IDs: 0
  allocated IDs: 0

Pool id: 0xffff80003, App: MP2MP
  Max number of ID mgr instances: 1
  ID mgr instances in use: 1
  Pool size: 65535
  zombied IDs: 0
  allocated IDs: 0

Pool id: 0xffff80004, App: RD
  Max number of ID mgr instances: 1
  ID mgr instances in use: 1
  Pool size: 65536
  zombied IDs: 0
  allocated IDs: 0

Pool id: 0xffff80005, App: IFLIST
  Max number of ID mgr instances: 1
  ID mgr instances in use: 1
  Pool size: 65535
  zombied IDs: 0
  allocated IDs: 1

Pool id: 0xffff80006, App: ATOM
  Max number of ID mgr instances: 1
  ID mgr instances in use: 1
  Pool size: 131071
  zombied IDs: 0
  allocated IDs: 0

Pool id: 0xffff80007, App: PWGroup
  Max number of ID mgr instances: 1
  ID mgr instances in use: 1
  Pool size: 65535
  zombied IDs: 0
  allocated IDs: 1

Pool id: 0xffffd0000, App: Global
  Max number of ID mgr instances: 1
  ID mgr instances in use: 1
  Pool size: 16383
  zombied IDs: 0
  allocated IDs: 2
```

## show l2vpn resource

L2VPN プロセスのメモリ ステータスを表示するには、XR EXEC モードで `show l2vpn resource` コマンドを使用します。

### show l2vpn resource

#### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

#### コマンド デフォルト

なし

#### コマンド モード

XR EXEC モード

#### コマンド履歴

リリース	変更内容
リリース 6.0	このコマンドが導入されました。

#### 使用上のガイドライン

このコマンドの使用に影響する特定のガイドラインはありません。

#### タスク ID

タスク ID	動作
l2vpn	読み取り

#### 例

次に、`show l2vpn resource` コマンドによる出力例を示します。

```
RP/0/RP0/CPU0:router# show l2vpn resource
Mon Oct 12 14:21:54.670 UTC
Memory: Normal
```

次の表で、この出力に表示される重要なフィールドを説明します。

表 3 : *show l2vpn resource* コマンド フィールドの説明

フィールド	説明
Memory	メモリのステータスを表示します。

## show l2vpn trace

L2VPN に関するトレース データを表示するには、XR EXEC モードで show l2vpn trace コマンドを使用します。

**show l2vpn trace [checker| file| hexdump| last| location| reverse| stats| tailf| unique| usec| verbose| wide| wrapping]**

### 構文の説明

<b>checker</b>	L2VPN Uberverifier に関するトレース データを表示します。
<b>file</b>	指定したファイルに関するトレース データを表示します。
<b>hexdump</b>	トレース データを 16 進数形式で表示します。
<b>last</b>	最後の <n> 個のエントリを表示します。
<b>location</b>	指定した場所に関するトレース データを表示します。
<b>reverse</b>	最初に最新のトレースを表示します。
<b>stats</b>	トレース統計情報を表示します。
<b>tailf</b>	新たに追加されたトレースを表示します。
<b>unique</b>	一意のエントリとそのカウントを表示します。
<b>usec</b>	タイムスタンプ付きの usec の詳細情報を表示します。
<b>verbose</b>	内部デバッグ情報を表示します。
<b>wide</b>	バッファ名、ノード名、tid を除くトレース データを表示します。
<b>wrapping</b>	ラッピング エントリを表示します。

コマンド デフォルト なし

コマンド モード XR EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
リリース 6.0	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドの使用に影響する特定のガイドラインはありません。

タスク ID

タスク ID	動作
l2vpn	読み取り

例

次に、show l2vpn trace コマンドによる出力例を示します。

```
RP/0/RP0/CPU0:router# show l2vpn trace
Mon Oct 12 14:22:09.082 UTC
188 unique entries (2596 possible, 0 filtered)
Oct 12 12:37:44.197 l2vpn/policy 0/RP0/CPU0 1# t4349 POLICY:320: l2vpn_policy_reg_agent
started - route_policy_supported=False, forward_class_supported=False
Oct 12 12:39:21.870 l2vpn/fwd-pd 0/RP0/CPU0 1# t5664 FWD_PD:731:
Oct 12 12:39:21.883 l2vpn/fwd-err 0/RP0/CPU0 1# t5664 FWD_ERR|ERR:76: Major version mis-match,
SHM: 0x0 Expected: 0x1
Oct 12 12:39:21.883 l2vpn/fwd-err 0/RP0/CPU0 1# t5664 FWD_ERR|ERR:87: Magic number mis-match,
SHM: 0x0 Expected: 0xa7b6c3d8
Oct 12 12:39:21.884 l2vpn/err 0/RP0/CPU0 1# t5664 FWD_ERR|ERR:76: Major version mis-match,
SHM: 0x0 Expected: 0x1
Oct 12 12:39:21.884 l2vpn/err 0/RP0/CPU0 1# t5664 FWD_ERR|ERR:87: Magic number mis-match,
SHM: 0x0 Expected: 0xa7b6c3d8
Oct 12 12:39:21.890 l2vpn/fwd-detail 0/RP0/CPU0 1# t5664 FWD_DETAIL:263: PWGROUP Table init
succeeded
Oct 12 12:39:21.890 l2vpn/fwd-detail 0/RP0/CPU0 2# t5664 FWD_DETAIL:416: l2tp session table
rebuilt
Oct 12 12:39:21.903 l2vpn/fwd-common 0/RP0/CPU0 1# t5664 FWD_COMMON:39: L2FIB_OBJ_TRACE:
trace_buf=0x7d48e0
Oct 12 12:39:25.613 l2vpn/issu 0/RP0/CPU0 1# t5664 ISSU:790: ISSU - imDR init called;
'infra/imdr' detected the 'informational' condition 'the service is not supported in the
node'
Oct 12 12:39:25.613 l2vpn/issu 0/RP0/CPU0 1# t5664 ISSU:430: ISSU - attempt to start
COLLABORATOR wait timer while not in ISSU mode
Oct 12 12:39:25.638 l2vpn/fwd-common 0/RP0/CPU0 1# t5664 FWD_COMMON:4241: show edm thread
initialized
Oct 12 12:39:25.781 l2vpn/fwd-mac 0/RP0/CPU0 1# t5664 FWD_MAC|ERR:783: Mac aging init
Oct 12 12:39:25.781 l2vpn/fwd-mac 0/RP0/CPU0 2# t5664 FWD_MAC:1954: l2vpn_gsp_cons_init
returned Success
Oct 12 12:39:25.781 l2vpn/err 0/RP0/CPU0 1# t5664 FWD_MAC|ERR:783: Mac aging init
Oct 12 12:39:25.782 l2vpn/fwd-aib 0/RP0/CPU0 4# t5664 FWD_AIB:446: aib connection opened
successfully
Oct 12 12:39:25.783 l2vpn/fwd-mac 0/RP0/CPU0 2# t5664 FWD_MAC:2004: Client successfully
joined gsp group
Oct 12 12:39:25.783 l2vpn/fwd-mac 0/RP0/CPU0 1# t5664 FWD_MAC:781: Initializing the txlist
IPC thread
Oct 12 12:39:25.783 l2vpn/fwd-mac 0/RP0/CPU0 1# t5664 FWD_MAC:3195: gsp_optimal_msg_size =
31264 (real: True)
```

## show l2vpn trace

```
Oct 12 12:39:25.783 l2vpn/fwd-mac 0/RP0/CPU0 1# t5664 FWD_MAC:626: Entering mac aging timer
init
Oct 12 12:39:25.783 l2vpn/fwd-mac 0/RP0/CPU0 1# t7519 FWD_MAC:725: Entering event loop for
mac txlist thread
Oct 12 12:39:25.797 l2vpn/fwd-mac 0/RP0/CPU0 1# t4222 FWD_MAC:2221: learning_client_colocated
0, is_client_netio 1
```

## show l2vpn xconnect

設定されている相互接続に関する簡潔な情報を表示するには、XR EXEC モードで show l2vpn xconnect コマンドを使用します。

**show l2vpn xconnect** [**brief**] **detail** *encapsulation* | **group** | **groups** | **interface** | **location** | **neighbor** | **standby** | **state** | **summary** | **type** *locally-switched*]

### 構文の説明

<b>brief</b>	(任意) カプセル化の簡潔な情報を表示します。
<b>detail</b>	(任意) 詳細情報を表示します。
<i>encapsulation</i>	(任意) カプセル化タイプをフィルタリングします。
<b>group</b>	(任意) 指定したグループのすべての相互接続を表示します。
<b>groups</b>	(任意) すべてのグループ情報を表示します。
<b>interface</b>	(任意) インターフェイスおよびサブインターフェイスをフィルタリングします。
<b>location</b>	(任意) 場所固有の情報を表示します。
<b>neighbor</b>	(任意) ネイバーをフィルタリングします。
<b>private</b>	(任意) プライベート情報を表示します。
<b>standby</b>	(任意) スタンバイ ノード固有の情報を表示します。
<b>state</b>	(任意) 次の xconnect ステート タイプをフィルタリングします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• up</li> <li>• down</li> </ul>
<b>summary</b>	(任意) AC マネージャ データベースの AC 情報を表示します。
<b>type</b>	(任意) ローカル スイッチング相互接続タイプをフィルタリングします。

コマンド デフォルト なし

コマンド モード XR EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
リリース 6.0	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

特定の相互接続がコマンドに指定されている場合は、その相互接続のみが表示されます。それ以外の場合は、すべての相互接続が表示されます。

タスク ID

タスク ID	動作
l2vpn	読み取り、書き込み

例

次に、show l2vpn xconnect コマンドによる出力例を示します。

```
RP/0/RP0/CPU0:router# show l2vpn xconnect
Mon Oct 12 14:22:20.566 UTC
Legend: ST = State, UP = Up, DN = Down, AD = Admin Down, UR = Unresolved,
        SB = Standby, SR = Standby Ready, (PP) = Partially Programmed
XConnect
Group      Name      ST      Description      ST      Description      ST
-----
XC         XC         UP      BE1              UP      BE2              UP
-----
XCON31    XCON1_P2P1 UP      Te0/0/0/0.1     UP      Te0/0/0/26.1    UP
-----
XCON32    XCON1_P2P2 UP      Te0/0/0/0.2     UP      Te0/0/0/26.2    UP
-----
XCON33    XCON1_P2P3 UP      Te0/0/0/0.3     UP      Te0/0/0/26.3    UP
-----
XCON34    XCON1_P2P4 UP      Te0/0/0/0.4     UP      Te0/0/0/26.4    UP
-----
XCON35    XCON1_P2P5 UP      Te0/0/0/0.5     UP      Te0/0/0/26.5    UP
-----
XCON36    XCON1_P2P6 UP      Te0/0/0/0.6     UP      Te0/0/0/26.6    UP
-----
XCON37    XCON1_P2P7 UP      Te0/0/0/0.7     UP      Te0/0/0/26.7    UP
-----
XCON38    XCON1_P2P8 UP      Te0/0/0/0.8     UP      Te0/0/0/26.8    UP
-----
```

次に、show run l2vpn コマンドによる出力例を示します。

```
RP/0/RP0/CPU0:router# show run l2vpn
Mon Oct 12 14:23:24.723 UTC
l2vpn
 xconnect group XC
  p2p XC
   interface Bundle-Ether1
   interface Bundle-Ether2
  !
```

```

!
xconnect group XCON31
 p2p XCON1_P2P1
   interface TenGigE0/0/0/0.1
   interface TenGigE0/0/0/26.1
!
!
xconnect group XCON32
 p2p XCON1_P2P2
   interface TenGigE0/0/0/0.2
   interface TenGigE0/0/0/26.2
!
!
xconnect group XCON33
 p2p XCON1_P2P3
   interface TenGigE0/0/0/0.3
   interface TenGigE0/0/0/26.3

```

次の表で、この出力に表示される重要なフィールドを説明します。

表 4 : *show l2vpn xconnect* コマンド フィールドの説明

フィールド	説明
XConnect Group	設定済みのすべての相互接続グループを表示します。
Group	相互接続グループの番号を表示します。
Name	相互接続グループの名前を表示します。
Description	相互接続グループの説明を表示します。説明が設定されていない場合は、インターフェイスタイプが表示されます。
ST	相互接続グループのステータス : up (UP) または down (DN) です。

## xconnect group

相互接続グループを設定するには、L2VPN コンフィギュレーション モードで `xconnect group` コマンドを使用します。デフォルトの動作に戻すには、このコマンドの `no` 形式を使用します。

**xconnect group** *group-name*

**no xconnect group** *group-name*

### 構文の説明

<i>group-name</i>	自由形式の 32 文字ストリングを使用して、相互接続グループ名を設定します。
-------------------	--

### コマンド デフォルト

なし

### コマンド モード

L2VPN コンフィギュレーション

### コマンド履歴

リリース	変更内容
リリース 6.0	このコマンドが導入されました。

### 使用上のガイドライン

このコマンドの使用に影響する特定のガイドラインはありません。



(注) ボックスごとに最大 16K の相互接続を設定できます。

### タスク ID

タスク ID	動作
l2vpn	読み取り、書き込み

### 例

次に、XCON1 のすべての相互接続をグループ化する例を示します。

```
RP/0/RP0/CPU0:router# configure
```

```
RP/0/RP0/CPU0:router(config)# l2vpn  
RP/0/RP0/CPU0:router(config-l2vpn)# xconnect group XCON1
```

